

根室地域で発見された津波堆積物とテフラのルミネッセンス法による年代測定

The luminescence dating of tsunami deposits and tephra layers in Nemuro coastal area, eastern Hokkaido

重野 聖之 [1]; 長友 恒人 [2]; 須崎 憲一 [3]; 下岡 順直 [3]; 七山 太 [4]; 古川 竜太 [5]; 猪熊 樹人 [6]

Kiyoyuki Shigeno[1]; Tsuneto Nagatomo[2]; Kenichi Suzuki[3]; Yorinao Shitaoka[3]; Futoshi Nanayama[4]; Ryuta Furukawa[5]; Shigeto Inokuma[6]

[1] 明治コンサルタント株式会社・北海道支社; [2] 奈良教育大学; [3] 奈良教大; [4] 産総研・地質; [5] 産総研; [6] 根室市歴史と自然の資料館

[1] Meiji C; [2] Nara University of Education; [3] NUE; [4] GSJ/AIST; [5] GSJ,AIST; [6] The Introduction of Nemuro City Museum of History

北海道東部、十勝から根室地域にかけての千島海溝に沿った沿岸域には、湿原や海跡湖が多数存在する。これらは人工改変を受けていないものが多く、5000年以上に渡って堆積した泥炭層がほぼ手つかずのまま保存されている。一方、この地域は歴史的に見て本邦屈指の地震津波多発地帯であり、頻繁に大規模な災害を被ってきた。この地域の沿岸低地においては、津波が陸域に残したと考えられる海成砂層に注目した研究が活発に行われてきた。しかし、これら巨大津波の発生年代を直接示す年代値データは未だ十分とは言い難い。

2005年10月に根室市のガツカラ浜、フレシマ湿原および南部沼で実施された津波トレンチ痕跡調査において、ガツカラ浜と南部沼においてルミネッセンス年代測定用試料の採取を行った。ルミネッセンス年代測定は大別して熱ルミネッセンス(TL)法と光ルミネッセンス(OSL)法の2つの方法があり、火山噴出物のような被熱歴がある試料はTL法で、風成堆積物や水成堆積物はOSL法で測定するのが一般的である。今回測定対象とした両地点は、津波堆積物とテフラ層が混在している状態であり、OSL法とTL法を適用することとして予察的に実施した。その成果の一部をポスター発表する。